
一通の手紙

詩辺詩織

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一通の手紙

【Nコード】

N0493B

【作者名】

詩辺詩織

【あらすじ】

残された手紙を見て、僕は何を思うのか。楽しかったけど、悲しかった君と過ごした何年もの時間。甘い恋など実るはずがない、僕はただ涙するだけ。

「ごめんね、約束守れなくて。」

卑怯だと思った。

こんな紙切れ一枚残して、何も言わずに目の前からいなくなるなんて。

許せない。

3時間。

雪の降る中、3時間待ったんだ。

君が来てくれることを信じて。

あの時の君の笑顔を信じて。

好きだったから。

大好きだったから。

失いたくなかったから。

君の笑顔を・・・・・・。

どうして言ってくれなかったんだろう。

僕の事が嫌いだったのだろうか。

それならそう言ってほしかった。

どれだけ悩んだと思ってるの？

どれだけ苦しんだと思ってるの？

待っている間、どれだけ君の事を思っていたと思うの？

知っていたよ。

君が他の男とよく遊んでいる事は。

でも、その事が言えなかった。

言ってしまったら、もう君には会えないと思ったから。

悩んだけど、
苦しんだけど、
ずっと耐えてきた。
ずっと知らないふりをした。

クリスマスも、君の誕生日も、僕の誕生日も、一緒に過ごした事はなかったね。

忙しいとか、
友達に祝ってもらうとか、
バイトが入ってるだとか、
いろんな理由を見つけてはパズルのピースのように、言い訳をばめ込んでいたね。
正直、辛かったよ。

そういえば、一度だけ僕の我侬を聞いてくれたね。
遊園地に行った時、僕は初めて好きな女の子と観覧車に乗った。
もちろん君の事さ。
あの狭い空間に君と居れるだけで満足だった。
外の景色も何もかも、僕には関係なかった。
これが最後のデート。
そう決めていたから、この最後の時間を楽しもうと決心した。
だから、我侬を言った。
半ば強引に観覧車に乗せた。
ごめんね。。。。

ある日、君から電話がかかってきた。
一緒にいて欲しい、と。
微かに君が泣いているのがわかった。
僕は気づくと家を飛び出していた。

携帯電話を握り締めて。
待っていて、と。

結局、僕は君に振り回されていた。

でも、そうやってる時間が一番楽しかった。

君がそばに居てくれたから。

僕は頑張っていた。

だけど、君が携帯の画面を見るたびに悲しくなった。

彼氏から連絡があれば、僕に用はない。

僕は忠誠を誓う犬のように。君に尽くしてきた。

君が欲しいと言った物、

君が行きたいと言った場所、

全部、僕はプレゼントしてきた。

でも、やっぱり。

僕じゃ駄目だったね。

「好きだよ、悠君。」

握り締めた紙の裏に書かれた一言。

こんな嘘まで付かせてしまうぐらい、僕は君に迷惑をかけていたんだね。

ごめんね。

許してください。

もっと早く、君の前から居なくなっていれば、君に迷惑をかける事もなかったのに。

僕が傷つく事だって無かったのに。

約束なんてするんじゃないかった。

来てくれないのは知っていた。

クリスマスだから。

やっぱり、一番好きな人と居たいはずだから。

それでも3時間待っていた僕はただの馬鹿です。

悔しくて涙が一粒。

悲しくて涙が一粒。

苦しくて涙が一粒。

虚しくて涙が一粒。

どんなに泣いても、君はやってこないとわかっているのに、でも、

それでも、

もう一度だけ、君の笑顔を見たかった。

「ねえ、悠君？」

「何？」

「私のこと好き？」

「好きだよ、どうして？」

「ううん、何でもないの、ただ聞きたかっただけ。」

君は電話でも僕の事を呼び出す度に同じ会話を繰り返したよね。

僕じゃ、彼氏になれませんか？

僕じゃ、君の事を幸せにできませんか？

僕じゃ、君に迷惑をかけるだけですか？

「好きです。」

「私も好きだよ、悠君。」

こんな甘い恋はありえるはずか無かったんだ。

（後書き）

読んでいただき、ありがとうございました。

コメントや評価をいただけると、次の作品に活かせると思います。
よければお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0493b/>

一通の手紙

2011年1月11日17時01分発行